

豊かな想像力を育てる音読・朗読の指導

—物語教材「大造じいさんとがん」を通して—

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究内容	41
1	音読・朗読の効果	41
2	現行学習指導要領における音読・朗読指導の系統	42
3	文学の読みでの想像力	42
4	豊かな想像力を育てる音読・朗読の指導過程	43
5	音読・朗読を重視した年間指導計画	44
III	授業実践	45
1	国語科学習指導案	45
2	単元名	45
3	単元について	45
4	単元の目標と主な指導事項	45
5	児童について	46
6	指導計画について	46
7	本時の指導	49
8	本時の評価	50
9	板書と朗読ノート	50
10	授業記録	52
11	授業研究会の記録	56
IV	資料	57
V	成果と今後の課題	61
	おわりに	61
	参考文献	61

浦添市立沢岷小学校教諭

山城 久美子

豊かな想像力を育てる音読・朗読の指導

—物語教材「大造じいさんとがん」を通して—

浦添市立沢岬小学校教諭 山城 久美子

I テーマ設定の理由

声高らかに、教室全体に響きわたる子供の読み声。思わず賞讃の拍手がわき起こる国語教室。読み終わった子の、誇らしげな輝くような表情。教師としての喜びを感じず、一瞬の風景ではないだろうか。

しかし、最近の子供たちは、「教科書が満足に読めない。」ということをよく耳にする。私の学級でも、声が小さく語や文としてまとめて読めない子、強弱や間の取り方の工夫がみられない子、登場人物の気持ちをうまく表せない子、等と読み方が不十分なのが現情である。

このことは、これまでの国語の授業のほとんどが、教材文の解釈をめぐる、「なぜ、どうして」とたたみかけるような発問に答えていく、読解中心の授業になっていたからではないだろうか。一時間の学習で、ほんの数分、ほんの数人の児童だけが音読をする授業。従って、子供たちは黙読による学習だけで、一単元を終ってしまう子が多かったのではないか。更に、高学年になるにつれて本読みの声が小さくなり、発表をする子も少なくなるという傾向にあった。

特に、国語の学習では、ことばのひとつひとつを音声化し、ことばに生命を吹き込んで、読む楽しさを味わうことは大切なことだと思う。ことばや文の読み声を響かせることによって、語感やリズム感をみがいていく。場面や情景、人物の気持ちを想像して、自分の感動したことを気持ちを込めて読んでいく。周りの子供たちも、想像力豊かに作品を読み深めていく。自ずと、子供たちは生き生きと国語学習に取り組むのではなからうか。

そこで、今回は五年生の物語教材「大造じいさんとがん」を通して、次の視点から授業改善を図っていきたい。

- ・場面や情景、人物の気持ちを想像しながら、読み合い、聞きあう場の設定。
- ・音読 朗読を取り入れた指導過程の工夫。

これまでの黙読中心の授業から、「音読に始まり、音読を聞き合い、音読に終わる」国語教室を目指し、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 音読・朗読の効果

- ・文字・言葉・語句を正しくとらえることができる。
- ・読み取った内容を確実にし、理解をさらに深めることができる。
- ・文章感覚・日本語のリズムを自然に身に付けることができる。
- ・感覚を刺激し、豊かに想像することができる。
- ・ひとつひとつの文字・言葉に注意を払って読むようになる。
- ・音声表現のおもしろさ・楽しさ・工夫に目が向くようになる。

- ・ 文章内容の概略をつかむことができる。
- ・ 文章の読み取りの中で、読み深めのきっかけを作ることができる。
- ・ 一人一人に自信を持たせ、聞く力を育て、集中力が身に付くようになる。
- ・ 日常生活の中での話しことばに、よい影響を与える。

2 現行学習指導要領における音読・朗読指導の系統

- 1年 ・ はっきりした発音で音読する。
 ・ 拾い読みでなく、語や文として読む。
- 2年 ・ 文章の内容を考えながら音読する。
- 3年 ・ 文章の内容を考えながら、はっきりした正しい発音で音読する。
 ・ 語や文として読むことに慣れる。
- 4年 ・ 書いてあることの意味がよく表れるように音読する。
- 5年 ・ 味わって読むため、また、他人に伝えるために朗読する。
- 6年 ・ 聞き手にも内容がよく味わえるように朗読する。

3 文学の読みでの想像力

(1) イメージとは

人々が心の中に浮かべる像である。

- ・ 視覚像が多いが、五感を働かせて感じとった心像（世界像）であることもある。
- ・ 作者が心の中に浮かべた像であり、作者はそれをことばで形象する。
- ・ 読者が心の中に浮かべる像であり、読者は読みながらそれを表象する。

(2) 想像力とは

心の中に像を浮かべる能力である。

- ・ 現実の知覚に与えられていない像（世界像）を心に浮かべる能力である。
- ・ ことばで虚構の世界を創造的に表現する力（形象力）である。
- ・ ことばを手がかりにして心の中に像を浮かべる力（表象力）である。

(3) 想像力を育てることの意義

想像力は、文学の読みを活性化する。語句や情景をイメージ化しつつ、そしてそれらを構造に関連づけつつ読むと作品世界を生き生きと創造することができ、その世界に生命感を躍動させつつ生きることができる。

想像力は自己の生命力を活性化し、人間観を豊かにする。想像力を使って文学を読むのであるが、その過程において自己の生命感を、深くする。読みにおいては想像力によって自己を越えて他者を生き、そのことによって豊かな人間観を育てる。（1.2.3 浜本純逸氏による）

(4) 豊かに想像させるための指導法

五感法 ————— 五感を働かせ、（色、声、香、味、触、法）想像させる。

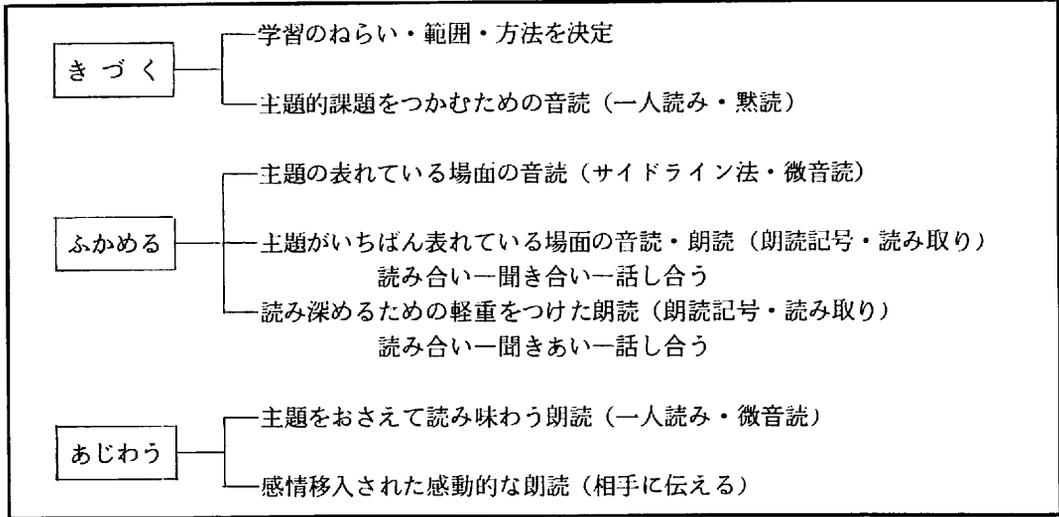
さし絵 ————— さし絵等を利用してイメージ化をはからせる。

吹き出し ————— 人物の気持ち等を想像させる。

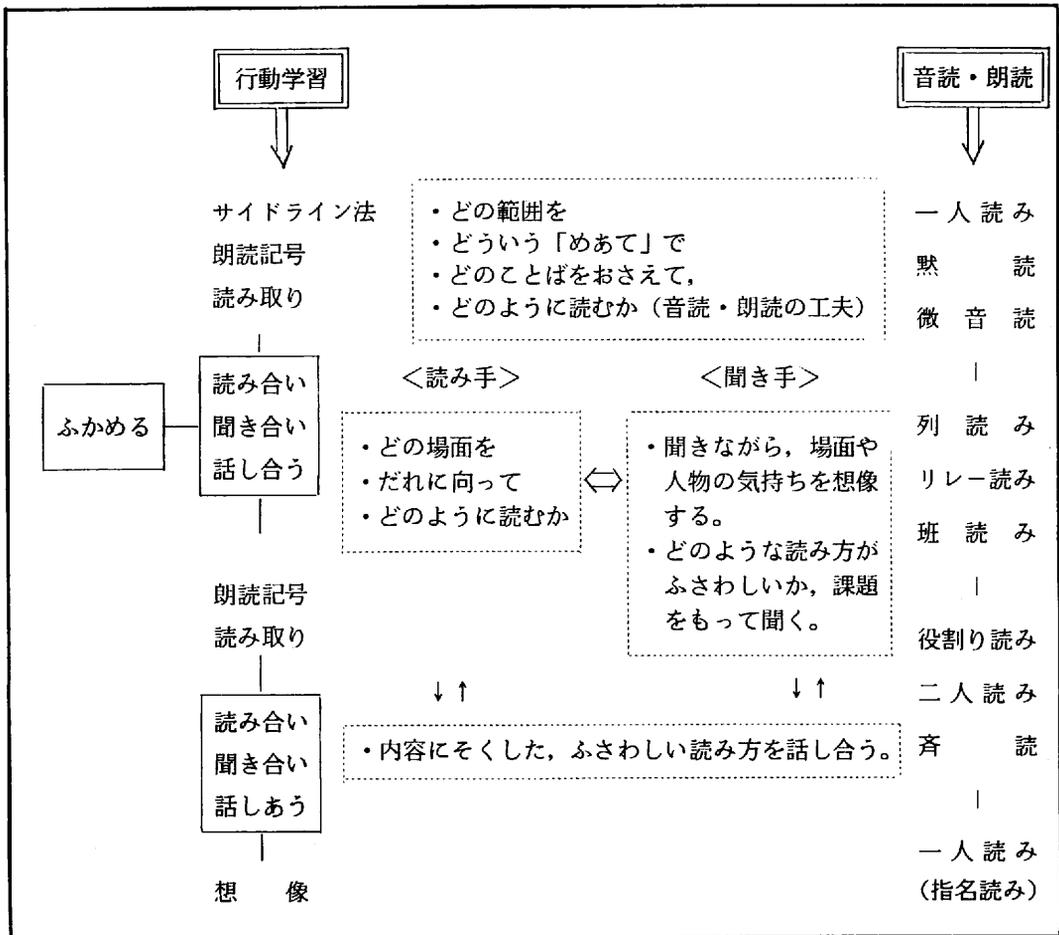
朗読 ————— 朗読を通してイメージ化をはかる。自分の描いたイメージをもとに朗読し、イメージをさらに深めていく。

行間の書きこみ —— 行間にことばを添える。

4 豊かな想像力を育てる音読・朗読の指導過程



「ふかめる」過程での行動学習法と音読・朗読



5 音読・朗読を重視した年間指導計画

(第5学年)

月	単 元	時数	単 元 の 目 標	音読・朗読の指導事項
4	心を見つめて (木登り)	4	◦場面の様子や登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら音読できるようにする。	◦場面の様子や登場人物の気持ちが聞き手に伝わるように朗読すること。
	(ふき子の父)	6	◦生活の中でのできごとや心の動きを見つめて日記を書く習慣を身につけることができるようにする。	◦正しい発音で読むこと。 ◦言葉の抑揚、強弱などに注意して朗読すること。
5	味わい深く 虫けら あめ はんぶんおりた	6	◦作者の気持ちや表現の優れているところを味わって読むことができるようにする。	◦詩の表現の特色に応じて朗読の工夫をすること。
7	お母さんの木	9	◦人物の気持ちを考えながら読み、人に伝わるように朗読したり、主題についての感想をまとめたりできるようにする。	◦文章の調子を生かして、情景や人物の気持ちが聞き手によく伝わるように朗読すること。
10	大造じいさんと がん	12	◦場面の移り変わりの中で人物の関係や気持ちの変化を読み取り、作品の主題を考え、感想を深めることができるようにする。	◦書かれている内容によって読み分けること、聞き手が描写のすぐれている部分、場面の情景や心情を味わえるように朗読すること。
12	雪わたり	6	◦表現の美しさに注意して人物の気持ちや場面の情景を味わって読むことができるようにする。	◦好きな場面や表現の優れた箇所を抜き出し、視写したり、朗読したりすること。
1	木竜うるし	7	◦人物の人柄や心情、場面が表れるように発表の仕方を工夫して、朗読会ができるようにする。	◦地の文、会話文などによって調子やリズムを工夫して朗読すること。 ◦歯切れのよい発音やアクセントで朗読すること。
3	キューリー夫人	8	◦伝記に出てくる人物の生き方や業績を読み取り、感想をまとめることができるようにする。	◦人物の心情や行動を、背景にある事柄と結びつけて朗読すること。

Ⅲ 授業実践

1 国語科学習指導案

平成2年11月6日(火)

5年2組 男17

女16 計33名

指導者 山城 久美子

研究テーマ

豊かな想像力を育てる音読・朗読の指導

——物語教材「大造じいさんとがん」を通して——

2 単元名「大造じいさんとがん」

3 単元について

「大造じいさんとがん」は、大造じいさんが残雪との戦いの中で、残雪の頭領としての威厳と勇気に感動していく、その心の変容が情景描写と相まって生き生きと描かれている物語である。

場面の展開は、児童にわかりやすく、大造じいさんの心の動きが巧みに描かれているので、音読・朗読に適した教材である。

大造じいさんの心情の変化は、つぶやき、心内語、呼びかけ等を音声化して読むことによって、その心情に共鳴させることができる。更に、美しい自然描写や行動描写は、間の取り方、読みの速さ、強弱を工夫して、読むことによって豊かに想像させていきたい。

このように、一つ一つの言葉に立ち返らせ音声化させることによって、言葉の響きや表現のみごとさを十分に味わわせながら、物語の主題に迫っていきたい。

4 単元の目標と主な指導事項

(1) 理解目標

残雪の行動に心うたれる大造じいさんの心情の変化や場面の情景を味わいながら読み、感想をまとめることができる。

(2) 主な指導事項

- ・人物の気持ちや場面の情景を表す表現を注意して読み、豊かに思い描くことができること。
- ・大造じいさんの心の動きや、その変化が伝わる様に、朗読する事が出来ること。
- 5年生の朗読指導事項
 - ◎他人に伝えるために朗読すること。
 - ・地の文、会話文などによって、調子やリズムを工夫して読むこと。
 - ・作者の意図や文章の主題が聞き手にわかるように読むこと。
- 単元の音読指導
 - ・人物の気持ちや場面の情景が聞き手に伝わるように、間の取り方、読みの速さ強弱等を工夫して朗読する。

5 児童について

- ・朗読記号の使い方は、だいぶ慣れてきた。文章の内容や言葉の使い方について気づいたことを書き込んだりして、ふくらませていくことは、まだ不十分である。
- ・児童相互の評価では、読み合い、聞き合うことによって、みがきをかけていく朗読を少しずつ意識するようになってきた。
- ・読みの実態は、語や文としてまとめて読めない子2人、強弱や間の取り方の工夫が見られない子15人、登場人物の気持ちをうまく表せない子16人である。

6 指導計画（12時間）

時	学 習 活 動	指 導 事 項	想像力と音読・朗読
1	全文を読んで強く印象に残った場面について、感想を書き発表する。	強く印象に残った場面を見つけ、感想に書くこと。	強く印象に残った場면을音読させる。
2	一と四の場면을対比して読み、学習課題を作る。	大造じいさんの気持ちの変化に気づくこと。 学習のめあてをもつこと。	一の場面と四の場면을音読させる。
大造じいさんの残雪に対する気持ちが友達に伝わるように工夫して朗読しよう			
3	一の場面を読む。 ・一わのがんを手に入れた喜びが表れるように、つぶやきを中心に朗読する。	うなぎつりばりの計略が成功した時の大造じいさんの気持ちを読みとること。 ・うまくいきそうな ・むねをわくわくさせて ・「しめたぞ！」 ・「ほほう、これはすばらしい！」	「しめたぞ！」や「ほほう、これはすばらしい！」に喜びが表れるように朗読させ、話し合いによって評価させる。
4	作戦が失敗した時の気持ちを「ううむ！」を中心に朗読する。	翌日は同じ作戦が失敗した驚きや残雪に対する認識の変化を読みとること。 「ううむ！」	「ううむ！」にくやしさと同時に驚きも表れるように朗読させ、評価させる。
5	二の場面を読む。 ・二年目の作戦にかけ	二年目の作戦も失敗してしまった無念さを読みとること。	「あかつきの光が……」美しい情景を想像させ、大造じ

時	学 習 活 動	指 導 事 項	想 像 力 と 音 読 ・ 朗 読
5	る意気込みや、失敗した無念さを心内語と「ううん。」を中心に朗読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・会心のえみをもらす ・目にものみせてくれる ・ほおがびりびりする。 ・してやられた ・「ううん。」 	いさんの意気込みを朗読させる。「ううん。」を一の場面の「ううむ！」と比較させ、無念さが表れるように朗読させ、評価させる。
6	<p>三の場面を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の情景を視写して、朗読する。 <p>残雪とはやぶさの戦いの場面の二人読みをする。</p>	<p>朝の情景を視写して思い描き、意気込みも読みとること。</p> <p>戦いの場面の表現上の工夫を知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さあ、今日こそ…ぞ」 ・くちびるを二、三回静かにぬらした。 ・さるもの 	「真っ赤に燃えて」の語感から大造じいさんの意気込みを想像させて朗読させる。
7	残雪の様子や大造じいさんの気持ちにサイドラインをひく。	<p>残雪の様子や大造じいさん心の変化を読みとること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あ！」 ・パーン、さっと、ぱっと ぱっぱっ ・強く心をうたれて ・ただの鳥 ・真一文字と一直線 	聞き手に緊迫感が伝わるように工夫して朗読させ、評価させる。
8	<p>四の場面を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情景を視写し、味わって朗読する。 	<p>情景を視写し、残雪の様子を読みとること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快い羽音一番 ・らんまん 	「らんまん」とにすがすがしさが表れるように朗読させる

時	学 習 活 動	指 導 事 項	想 像 力 と 音 読 ・ 朗 読
9 (本時)	<p>○呼びかけを中心に朗読する。</p>	<p>大造じいさんの晴れ晴れとした気持ちや人柄を読み取ること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おうい。がんの英ゆうよ。」 ・晴れ晴れとした ・いつまでも、いつまでも見守っていた。 	<p>大造じいさんの晴れ晴れとした心境や人柄が表れるように工夫して朗読させ、評価させる。</p> 
10	<p>感動の中心をはっきりさせ、主題を考えながら感想文を書く。</p>	<p>主題をとらえ、感想をかくこと。</p>	<p>主題をとらえ、感想を書かせる。</p>
11	<p>「片耳の大しか」を音読し、クライマックス場面を見つける</p>	<p>クライマックス場面から、主題について考えること。</p>	<p>場面の様子を思い浮かべて音読することにより、クライマックス場面を直観させる。</p>
12	<p>感動した場面を朗読し合って、作品を読み味わい、読書生活を考える。</p>	<p>クライマックス場面や感動した場面を朗読したり、暗唱したりすること。</p> <p>椋鳩十の作品を紹介し合うこと。</p>	<p>感動場面を朗読したり暗唱したりして読書への関心を高めさせる。</p>

7 本時の指導

(1) 本時の目標 残雪によびかけているときの大造じいさんの気持ちが表れるように、工夫して朗読することができる。

(2) 本時の展開 (9/12)

学 習 活 動	指 導 事 項	想像力と音読朗読
<p>1 前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ。</p> <p>四の場面を朗読し、情景をイメージ化する。</p> <p>本時の学習のめあてや方法を確認する。</p>	<p>文字を正しく読むこと。</p> <p>学習のめあてをつかむこと。</p>	<p>はっきりした声で朗読させる。</p> <p>(指名読み)</p>
<p>残雪によびかけている大造じいさんの気持ちが友達に伝わるように工夫して朗読しよう。</p>		
<p>2 残雪に対する気持ちが表れている語句にサイドラインを引き発表する。</p> <p>3 サイドラインに気をつけて、大造じいさんの気持ちを読取り、朗読する。</p> <p>朗読の発表をし、その評価(話し合い)をする。</p> <p>4 話し合ったことを参考に、大造じいさんの気持ちをさらに読みふか</p>	<p>・おうい、がんの英ゆうよ。</p> <p>・えらぶつ</p> <p>・ひきょうなやり方で、</p> <p>・なかまを連れて</p> <p>・おれたちは、</p> <p>・大きな声で</p> <p>・はればれとした顔つきで</p> <p>・いつまでも、いつまでも、</p> <p>大造じいさんの心の動きを読みとること。</p> <p>気持ちが表れる読みの工夫をすること。</p> <p>友達の発表と朗読を聞き、自分の朗読にいかすこと。</p> <p>・見守っていた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>見送っていた。</p> <p>工夫がわかるように朗読すること。</p>	<p>すがすがしい大造じいさんの心を語句から読みとらせる。</p> <p>(一人読み、微音読)</p> <p><サイドライン法></p> <p>大造じいさんの晴れ晴れした心情を、間、強弱、速さ、抑揚、イントネーションに気をつけて朗読させる</p> <p>(一人読み、微音読)</p> <p><朗読ノート①></p> <p>(相互指名読み)</p> <p><メモ></p> <p>(列読み、リレー読み)</p> <p>大造じいさんの心情が表れるように、残雪へ呼びかける文を工夫して朗読</p>

学 習 活 動	指 導 事 項	想 像 力 と 音 読 ・ 朗 読
<p>める。</p> <p>朗読の発表をし、その評価をする。</p> <p>5 大造じいさんの気持ちが聞き手に伝わるように朗読し、自己評価する。</p> <p>6 四の場面全体を朗読する。</p> <p>7 次時予告をする。</p>	<p>友達の朗読を評価すること。</p> <p>感情をこめて豊かに読み、一回目の読みと比較すること。</p> <p>美しい情景や残雪に呼びかけている大造じいさんの気持ちが聞き手に伝わるように朗読すること。</p>	<p>させる。</p> <p>(一人読み、微音読)</p> <p><朗読ノート②></p> <p>(相互指名読み)</p> <p><メモ></p> <p>(一人読み、微音読)</p> <p><自己評価></p> <p>(指名読み)</p>

8 本時の評価

- (ア) 残雪に呼びかけている大造じいさんの気持ちが、友達に伝わるように朗読できたか。
- ・よく伝わる様に朗読できた。
 - ・あまり伝わらなかった。
- (イ) 楽しく意欲的に取り組む過程であったか。
- (ウ) 一人一人の想像力を育てる発問であったか。

9 板書と朗読ノート

「おうい。がんの英ゆうよ。……」
(切り抜いた部分)

読み取り
堂々と戦おう
また会おう

強弱 ゆっくり
間の取りかた

いまいましく思った。
←
またしてもやられた。
←
強く心を打たれた。

残雪に呼びかけている大造じいさんの気持ちが、
友達に伝わるように工夫して朗読しよう。

おうい。がんの英雄よ。
人間よりも勇気を持っている。
えらぶつ
いいやつ
ひきょうなやり方で
せいせい堂々と戦おう
堂々と戦おう
今年の冬もまたこいよ。
晴れ晴れとした顔つきで
うれしそうに
いつまでも、いつまでも、見守っていました。
また会おうな

授 業 の 流 れ	考 察
<p>1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <p>T これまで学習した1.2.3の場面で、大造じいさんは残雪に対してどんな気持ちでしたか。</p> <p>C 1の場面では、いまいましく思った。 2の場面では、またしてもやられた。 3の場面では、強く心をうたれた。</p> <p>T 今日は、4の場面後半のお勉強でしたね。大造じいさんが残雪に呼びかけている場面の様子を思いうかべて、4の場面を読んでみましょう。(指名読み 一人)</p> <p>T では、学習のめあてを言ってみましょう。</p> <p>C 残雪に呼びかけている大造じいさんの気持ちが、友達に伝わるように工夫して朗読しよう。</p> <p>T 学習の進め方を言ってみましょう。</p> <p>C 大造じいさんの気持ちが表れているところに、サイドラインを引きます。 大造じいさんの気持ちを考えて、読みの工夫をします。</p> <p>T 読みの工夫というのは？</p> <p>C 朗読記号をつけて、強弱や間の取り方に気をつけて読みます。</p> <p>2 残雪に対する気持ちが表れている語句にサイドラインを引き、発表する。</p> <p>T では、大造じいさんの気持ちが表れているところに、サイドラインを引いてください。それから、大造じいさんの気持ちを、自分の言葉で書いてください。(朗読ノート)</p> <p>T サイドラインの言葉と気持ちの読み取りを、発表しましょう。</p> <p>C 「ひきょうなやりかたでやつけたかあないぞ。」に、サイドラインをひきました。大造じいさんの、次はせいせい堂々と戦おうという気持ちが、表れていると思います。</p>	<p>すこし、ぎこちない読み方だった。</p> <p>学習方法をしっかりおさえた。</p>  <p>気持ちの読み取りができた。</p>

授 業 の 流 れ	考 察
<p>C 「晴々とした顔つきで」に、サイドラインを引きました。大造じいさんのうれしそうな気持ちが表れています。</p> <p>C 「おまえみたいなえらびつを」に、サイドラインを引きました。大造じいさんのいやつだと思ふ気持ちが表れています。</p> <p>C 「堂々と戦おう」に、サイドラインを引きました。大造じいさんの、ひきょうなやり方はやめよう、という気持ちが表れています。</p> <p>C 「おうい、がんの英ゆうよ。」に、サイドラインを引きました。大造じいさんの、人間よりも勇気を持っているな、という気持ちが表れていると思います。</p> <p>T なるほど。呼び方が変わってきていますね。ここでは、「英ゆう」になっていますね。</p> <p>T それでは、大造じいさんの気持ちの読み取りを、朗読ノートに書いてください。</p>	<p>じいさんの表情の読み取りができた。</p> <p>気持ちの変化の読み取りができた。</p>
<p>3 サイドラインに気をつけて、大造じいさんの気持ちを読み取り、朗読の工夫をする。</p>	
<p>T では、サイドラインは引けたので、朗読記号をつけてみましょう。微音読しながら、記号をつけましょう。間の取り方、強弱、速さも気をつけること。</p>	<p>半数ほどの子が微音読していた。</p>
<p>友達朗読を聞き、良い点を指摘し自分の朗読の参考にする。</p>	
<p>T それでは、発表と朗読をしてもらいましょう。</p> <p>C この場面は、大造じいさんが前とは違ってがんを尊敬するようになっています。最後は、残雪のことを英ゆうとまで言っているのでそう思います。そういう気持ちが表れるように、間の取り方に気をつけて読みます。</p> <p>T メモの用意はいいですか。</p> <p>C</p> <p>北へ 北へと 飛び去っていくのを ∨.....∨..... いつまでも、いつまでも、見守っていた。</p>	<p>ほとんどの子がメモを取りながら聞きいていた。</p>

授 業 の 流 れ	考 察
<p>C どうでしたか。</p> <p>C 「北へ北へと飛び去っていく」は、大造じいさんの感情がこもっていました。工夫してほしいことは、もう少しゆっくり読んだ方が感情がでると思います。</p> <p>C 間の取り方が良くて、「いつまでも、いつまでも」というところは、大造じいさんが残雪をいつまでも見守っている感じがしました。</p> <p>工夫してほしいことは、強弱をつけた方が良かったと思います。</p> <p>T 次は、Bさんに読んでもらいましょう。</p> <p>C この場面は、大造じいさんと残雪がまた会おうというところです。大造じいさんが、ほんとうの勇気を持っているがよ、また会おう、という気持ちが想像できます。間の取り方に気をつけて読みます。</p> <p>.....▽~~~~~▽~~~~~ いつまでも、いつまでも、見守っていた。</p> <p>.....→▽~~~~~ ひきょうなやり方で やっつけたかあないぞ。</p>	<p>相互評価で、聞き取る力と読み方の工夫を学んでいく。</p> <p>2回日の「いつまでも」の読み方が上手になった。</p>
<p>C どうでしたか。</p> <p>C 「いつまで、いつまでも」の間の取り方が良かった。工夫してほしいことは、もう少しゆっくり読んだ方が良かったです。</p> <p>T どの言葉を、ゆっくり読んだ方がいいのかな。</p> <p>また、間の取り方でも1拍、2拍、3拍とありますが、どれを使った方がいいのかな。</p> <p>C 「ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。」というところが、強くはっきり読めていたので良かった。もう少しゆっくり読んだら、大造じいさんのまた会おうという気持ちが、表れると思います。</p> <p>T どの言葉ですか。</p> <p>C 「会話が終わるところです。2拍か3拍、間をおいた方がいいです。」</p> <p>T では、そこを列読みしてみましょう。(6人)</p>	 <p>内容を深める発問の工夫が必要である。</p>

授 業 の 流 れ

考 察

C

「おれたちは、また、堂々と戦おうじゃあないか。」

T だんだん感じがでてきましたね。

T 「おれたちは、」のところは、1拍の方がいいですか。2拍の方がいいですか。

C 2拍がいいです。

4 話し合ったことを参考にして、更に読み深める。

T それでは、これまでの友達の朗読を聞いて、もっと工夫したいところを赤ペンで書いてください。微音読しながら。

T では、Cさんに読んでもらいましょう。 (朗読ノート)

C この場面は、大造じいさんが残雪をにがしてやるところです。大造じいさんの、また米いよという気持ちが想像できます。間の取り方に気をつけて読みます。

なあおい。今年.....の冬も、仲間を連れて、ぬま地にやってこいよ。

C 「なあおい。今年.....の冬も、仲間を連れて、ぬま地にやってこいよ。」は、大造じいさんのやさしい気持ちが伝わってきました。

T もう少し、工夫してほしいところがありますが、最初の方はどうでしたか。

C 「英雄よ」を、もう少しはっきり読んだ方がいいです。

T では、この部分を列読みしてみましょう。

おうい。がんの英.....ゆうよ。

T 今度は、この部分を全員で読んでみましょう。

おうい。がんの英.....ゆうよ。

一人ひとり読み合い、聞き合う。



聞き合った後の工夫が、はっきり表れていた。

一人ひとりの読み方の語感の相違に気づかせる。

授 業 の 流 れ	考 察
<p>5 大造じいさんの気持ちが友達に伝わるように朗読し、自己評価する。</p> <p>T 今日のお勉強のまとめです。4の場面後半を一人読みしましょう。そして、自己評価をしてください。</p> <p>4の場面全体を朗読する。</p> <p>T まとめ朗読です。(指名読み) C (2人の児童が4の場面を読む。) T 大造じいさんになっている感じで、豊かに読みましたね。</p> <p>次時予告</p> <p>T 次の時間は、大造じいさんとがんの感想を書きます。</p>	 <p>大造じいさんのがんを見送る寂しさが、伝わる様な読み方をしていた。</p>

11 授業研究会の記録

(1) 授業者の反省

- ・本時の授業にのせるまでに、物語教材の音読・朗読を取り入れた指導過程作りに力を入れてきた。このような学習の進め方で、子供たちは、音読・朗読を取り入れた授業形態が次第に分かってきている。今日の授業でも子供たちは、学習のすすめ方が分かっているので、喜んで学習に取り組んでいた。
- ・全員が読み合う場を作ろうとして、列読みで時間がかかりすぎた。
- ・気持ちの読み取りと読み方の工夫の往復活動で、想像力をふくらませようとの思いだったが、後半は読み方の練習が多くなっていた。切り込んでいく部分で、あまり活動させる事ができなかった。
- ・児童の実態把握が、少し弱かった。音読・朗読の事前調査を、きちんとしておくべきだった。

(2) 感想・意見

- ・朗読を取り入れた授業展開のしかたが、とても新鮮に感じられた。
- ・最初の書き込みをする時は、黙読でも良いのでは。
- ・「おうい。がんの英ゆうよ。」は、もう少し読ませても良かったのではないか。
- ・会話文と地の文を分けて読ませても良かったのでは。

- ・読み取った内容の書かせ方、またそれを深めるためにはどういいう手立てが必要か。
- ・教師が切り抜きした部分は、視覚に訴えるためにも朗読記号を入れてはどうか。

(3) 指導助言（諸見里）

(良い点)

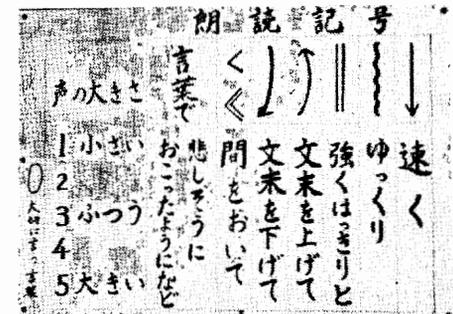
- ・音読だけに偏らず、読む、書く、聞く、話す、活動が総合的に入っているので、バランスのとれた学習であった。
- ・子供たちは、学習の仕方が分かっているので、主体的に学習に取り組んでいた。
- ・朗読のポイント「間をおいて読む」ことが、授業の中でよく生かされていた。
- ・一時間の中で、一人読み、微音読、列読み、指名読み、相互読み、リレー読みと多様な読み方が入っていて、変化のある楽しい授業であった。
- ・朗読ノートの活用はよかった。書き込んで、聞き合い、更に工夫して書き込のでいくことを通して、子供たちの思考が深まる。
- ・聞き合う時間が位置づけられていて、聞き取る力のつく授業であった。

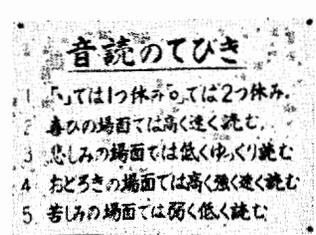
(改めたい点)

- ・学習形態の変化があっても良かったのでは。
- ・読み深めるためには、どの言葉をおさえて、どの言葉と響かせていくかということが大切である。
- ・「ゆっくり読むと、おじいさんのどういいう気持ちが表れるか。」等と、もう少しほりさげた発問が、欲しかった。
- ・子供が一人ひとり読むごとに、教師がコメントをつけて励まし、自信を持たせて終わった方がよい。

IV 資料

朗読記号と話型

<p>○ □ に、サイドラインを引きました。</p> <p>○ ここは、大造じいさんの □ 気持ちがある、表れていると思います。</p> <p>○ □ に気をつけて、読みます。</p>	
--	--

<p>② しっかり聞こう</p> <p>① 良いところ</p> <p>② 工夫してほしいところ</p>	<p>① 学習の進め方</p> <p>② 気持ちの表れているところにサイドラインを引きます。</p> <p>① 大造じいさんの気持ちを考え、読みの工夫をします。</p>	
---	--	--

朗読学習の感想

朗読学習をして、私は、いろいろなことがわかりました。然読するより、声を出して読むと、その人の気持ちか、よくわかるという事です。微音読も、とても大切なことだと思います。私は、朗読学習をするようになってから、前よりも発表の数が多くなりました。前よりも本読みが、上手になりました。

みんなが、自分の意見を発表するので、私は、「あ、そ、か、こう、いうふう、に、考えれば、いいんだな」とか、ほとんどの人が、まじめに、きんら、うして、授業を受けたし、とても、楽しかったです。

発表は一回目は、はずかしかったのに、二、三回や、ていくと、たんたん、楽しくな、てきました。

今までの朗読学習の、うに、こ、れから、も、こんな、楽しい、授業、を、したい、な。

朗読学習の感想

私は、国語の勉強をして、とても発表が多くなりました。特に、発表を一回以上は、する、という、ことが、決ま、て、発表の、らん、を作、た、時、から、発表、が、多、く、な、り、ま、した。

良くな、た、所、は、朗読、が、う、ま、く、な、た、こと、です。また、朗読、する、前、の、話、型、は、最、初、は、つ、つ、か、え、たり、し、た、け、ど、毎、日、や、て、い、く、う、ち、に、ど、ん、ど、ん、す、う、す、う、言、え、て、き、ま、し、た。む、つ、か、し、か、た、所、は、サイ、ド、ライ、ン、を、引、いた、言、葉、を、自、分、の、言、葉、に、直、し、て、発、表、し、た、こと、です。次に、読、ん、だ、人、の、朗、読、を、聞、いて、良、か、た、所、エ、夫、し、て、ほ、し、か、た、所、を、言、え、て、み、ん、な、に、エ、夫、し、て、ほ、し、か、た、所、を、言、わ、れ、た、所、は、言、わ、れ、た、通、り、に、朗、読、記、号、を、つ、け、て、読、み、ま、し、た。

この、よ、う、な、授、業、の、や、り、方、で、国、語、の、授、業、が、楽、し、く、な、り、ま、し、た。

大造しいさんとかん
 残雪は とてもすこい鳥だと思います
 同じかんでも大造かしがけたつりはりに
 ひっかかり つかま、たのに 残雪はそ
 のわたのこうりやくを考え 見事にえ
 さだけを食へることかできたからです
 それに自分の仲間を助けるためにおそれ
 ることもなくはやぶさにたちむかっ
 てい き、そして自分の身をきせいにして
 仲間を助けた勇氣に感心しました
 大造しいさんも 残雪ははやぶごと戦
 っている時 つとつと思えば残雪をうて
 たのにつたなか、たのは、その頭領らし
 い勇氣に感心してこんなり、はなかんを
 つつなんでできなかつたんだと思ひます
 私、残雪のように勇氣 強い心をも
 って生きていけたらいいなあ

大造しいさんとかん
 残雪の、すぐそばにいるのに、わらわ
 すに、ついでうしゅうをあらうしてしまつた
 大造しいさんを、私は、えらうなあ、と
 思ひました。残雪は、こわい、のち知らす
 に、仲間を助けること大りの一心のた
 め、気がつき、強く心を打たれて、しゅうを
 おうしてしまつたと思ひます
 私、わらわ、大造しいさんと、同じよ
 うなことをしたかも知れませんが、反対に
 は、大造しいさんを、エヤリます
 じりさんを、正面から、ぶら見つた
 とりうとこ、なにか、ほんとに、勇気の
 あらう鳥だなと感心しました
 大造しいさんの残雪に対する気持が変
 わつて、つたのは、残雪の行動を見て、気
 がついて、それから、ななうと、とんと
 人変わ、こりつたと思ひます
 私、残雪と一緒に、遠々と、戦つて
 見たいです
 私、残雪は、ソニう、なつたのこ
 づか、ま、え、ら、れ、ま、の、こ、う、か、は、わ、か、り、ま、せ
 人

< 朗 読 カ ー ド >

(児童用)

5年

観 点		
1. 声の大きさはよいか。		
2. てんやまらに気をつけて読めたか。		
3. 速さや間の取り方はよいか。		
4. 地の文と会話の文のちがいに気をつけ、調子・リズムを変えて読めたか。		
5. 読みちがいはないか。		
6. ひろい読み、たどり読み、くりかえし読みはないか。		
7. 場面の情景や人物の動作・気持ちが表れるように聞き手のことを考えて読めたか。		
8. 自分の感動を、朗読で表すことができたか。		
気づいたこと		

< 評 価 例 >

音読個別化表
(教師用)

(女子)	声の大きさ	速さや 間のとり方	気持ちの 表し方	今 後 の 指 導
	○	◎	○	口をもっと開ける。
	○	○	○	一学期より、だいぶ上手になった。
	◎	◎	◎	気持ちがこもっている。
	◎	◎	◎	元気な声で読んでいる。
	○	◎	○	もう少し、口を大きく開けて
	◎	○	○	もっとゆっくり
	◎	◎	◎	主題に迫る読み方をしている。
	○	◎	○	喜んで読むようになった。
	◎	◎	◎	大へん上手、特に間の取り方
	◎	◎	○	強弱に気をつける。
	○	◎	○	もっと声のだせる。基礎練習。
	◎	○	○	会話をもっとていねいに。
	◎	○	◎	強弱に気をつける。
	◎	◎	◎	とても上手、抑揚も出せる。
	△	○	○	発声練習が必要。どうやらがんばった。
	△	○	○	たどり読みに気をつける。

V 成果と今後の課題

成果

- ・ ほとんどの児童が、音読・朗読学習は楽しいとの感想を持ち、喜んで発表をするようになった。
- ・ 多様な読み方を取り入れ、更に、朗読ノートの作成で児童は書き込みの仕方がわかった。
- ・ 物語教材の音読・朗読を取り入れた指導過程がわかり、授業をスムーズに展開させることができた。

課題

- ・ 気持ちの読み取りと朗読のさせ方での、精選した発問の工夫。
- ・ 教師の範読の工夫

おわりに

研修にあたり、指導助言をいただきました諸見里総指導主事をはじめ指導課の先生方、共に協力しあった研修員のみなさんに、深く感謝を申し上げます。

参考文献

授業を変える音読のすすめ	八戸音読研究会	明治図書
言語感覚を育てる音読・朗読・暗唱	鷺の宮小学校	明治図書
音読・朗読指導の実際	北村季夫	新光閣書店
ことばで心を耕す国語教室	瀬川榮志	光文書院
視写・聴写・暗写・音読・朗読	星野 巖	白陽舎印刷